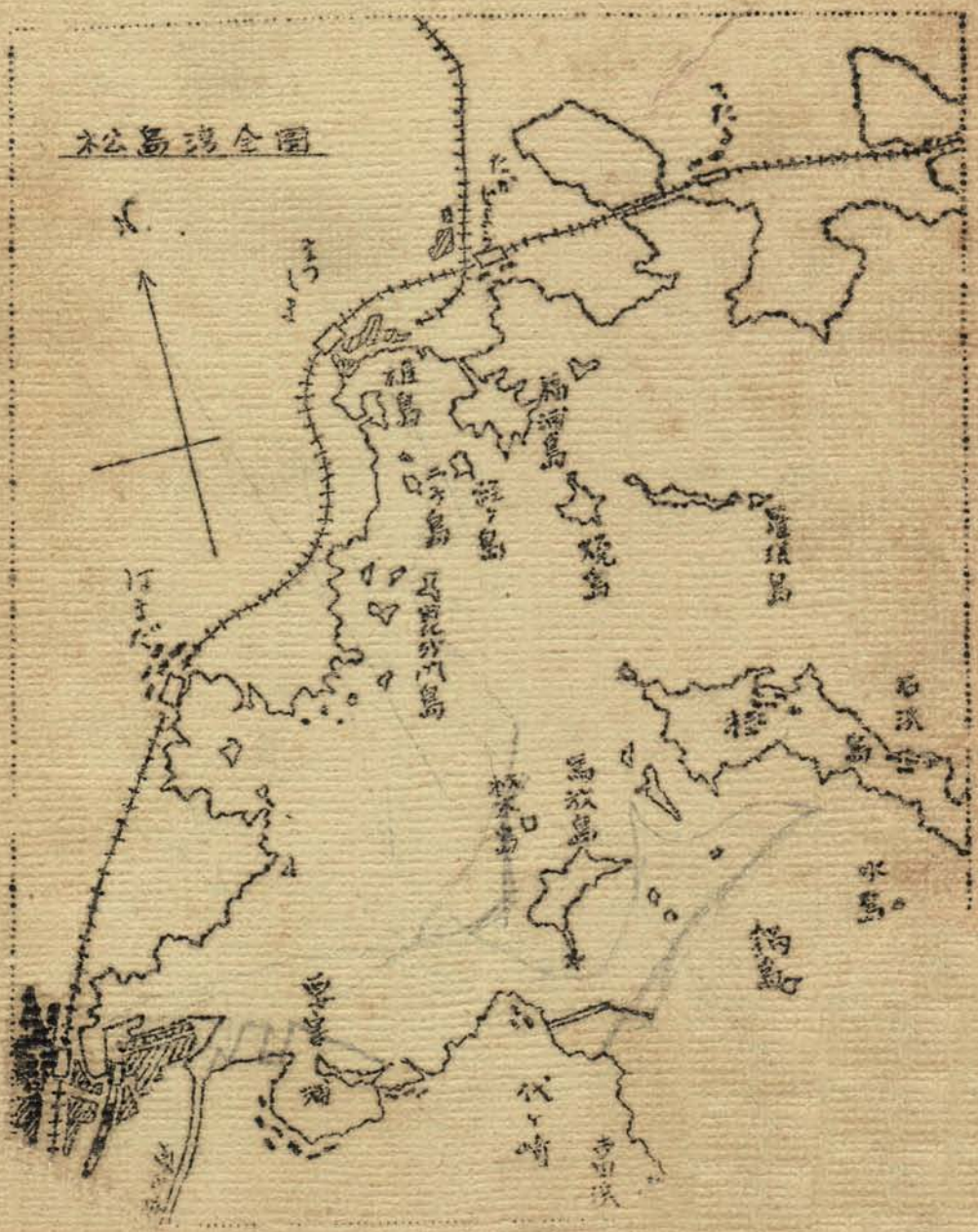
巨擘

東北帝國大學帆走部編



白翠

学び舎のますらをに取りて
若き日のいかに早く過ぎゆく
彼等じたすらに逸樂を求めゆけど
我等いつくしき錬成にむかはむ

表紙 …… 松島略図入

題號 …… 題字白學

目次 …… 記録者ハ裏表紙デ且別項トセリシタ

巻頭言 …… 滝藤四郎

寄稿 並ビニ前線ヨリ …… P 1

論説 …… P 16

隨想 …… P 37

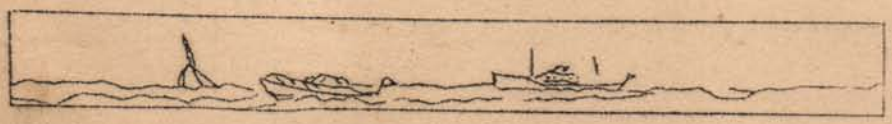
文藻 …… P 51

記録 …… P 1

余滴

1. 手樹訓練 …… P 5
2. 陸に上った河童戦球戦 …… P 33
3. 冬のヨット …… P 41
4. 駅から五分で走った話 …… P 43
5. 例定防空壕掘りの記 …… P 56

松島の一日 …… P 50



巻頭言

滝藤四郎

我々は先づ何よりも、実力を養ひ度い。
如何なる敵に立ち到らうともびくともしないで、
充分ふる安全さを以てそれを乗り切る丈けの実力を
養ひ度いのである。「実力」と云つてもそれは単にたゞひに
勝つ丈けでは無い。これをも含めて、或は之と同じ事に
なるとも思ふのだが、もつと廣い深い意味での積極的な
力強いものなのである。養ふには行の他無いのである。
宣傳や説法は刺戟の意味しか持ち得ない。全知全能を挙げ
ての不断の努力があるのみである。leben ist Philosophieren und Arbeiten!
我々は、かゝる意味合に於て実力を身に
つけむと努める。之が我々の唯一の願ひであり、努めで
あり、励みである。

教授
先輩

寄稿

附

前線ヨリ

寄稿

一、帆走部其后の消息 …… 部長 理学部教授 高須鶴三郎 …… P3

二、海への憧れ …… 岩本病院長 ヨット協会理事 岩本正樹 …… P4

三、白翠余話 …… 法学士 昭十四卒 後藤洸 …… P6

四、我等の進むべき道 …… 工学士 昭十七卒 矢吹禎男 …… P8

五、近況 …… 工学士 昭十七卒 小野弘智 …… P10

六、期待 …… 経済学士 昭十七九月卒 中尾良 …… P11

七、協会から …… 在学生 経二年 近藤朝夫 …… P12

前線タヨリ …… P13—15

一、賀家寛而 …… 医学士（昭十五卒）

二、横田好意 …… 法学士（昭十七九月卒）

三、佐々木宏 …… 法学士（昭十七九月卒）

四、末松茂賓 …… 経済学士（昭十七九月卒）

五、中尾良 …… 経済学士（昭十七九月卒）